

CONTENTS

● 第11回通常総会、懇親会	1	● 平成19年度組織図・平成19年度役員名簿	7
● 会長挨拶・交代理事挨拶・交代委員長挨拶	2・3	● AMEI会員名簿・新入会員のご紹介	8
● 平成19年度事業計画	4・5	通常総会議事録の開示案内	
● セミナー等の報告	6		

## 第11回通常総会

### 社団法人 音楽電子事業協会 第11回 通常総会



加藤会長の挨拶



総会風景

第11回通常総会は5月10日午後4時から飯田橋のホテルエドモントで開催されました。

冒頭に、加藤博万会長から挨拶があり、続いて経済産業省文化情報関連産業課課長補佐の太田茂雄様からご来賓の挨拶を頂きました。

定足数の発表と総会成立が事務局より報告され、加藤会長が議長に就いて議案が審議されました。

#### 1号議案

平成18年度事業報告について平野専務理事より各委員会の活動などが報告され、承認されました。

#### 2号議案

平成18年度収支決算報告(当期収支差額△2,095,637円、次期繰越収支差額11,270,945円)について神川管理部長より説明と大内監事からの監査報告があり承認されました。袴運営委員長より、理事会社の代表者交代などにより6名の役員交代が説明され、和田康孝副会長(第一興商)ほか5名が選任されました。またAMEI事務局では平野勝彦専務理事が退任され、後任に岩崎修三普及部長が選任されました。

#### 4号議案

平成19年度事業計画案について、岩崎専務理事から説明があり承認されました。

#### 5号議案

平成19年度収支予算案(当期収支差額 47,000円、次期繰越収支差額 11,317,945円)が岩崎専務理事より説明があり承認されました。

全ての議案が終了し、和田副会長より、閉会の辞がありました。

総会終了後、約90名参加の懇親会が同ホテル別室で開催されました。加藤博万会長挨拶に続き、経済産業省 太田茂雄課長補佐様、文化庁 木村哲規課長補佐様からのご来賓挨拶、日本音楽著作権協会理事長 吉田茂様の乾杯のご発声により懇親の会が始まりました。懇親会の席で、永年に亘りAMEIに貢献され今回退任された福田誠 広報委員会委員長(カシオ計算機)、上野博司 製品安全環境委員会委員長(ローランド)、平野勝彦専務理事に感謝状と記念品が贈られました。

午後8時過ぎ、佐々木副会長の中締めの後、散会しました。



## AMEI第11期を迎えて

加藤 博万 会長  
ヤマハ株式会社 取締役 専務執行役員

会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より当協会を支援いただいている経済産業省の方々、各企業の皆様、そして各団体の皆様の活動に対する支持を心より感謝申し上げます。

去年、AMEI創立10周年ということをお知らせし、次の10年の節目に向かって組織と協会の機能とメリットを明確にすべき年というようなことを申し上げました。この1年を振り返り、AMEIを取り巻く環境のいくつかのポイントを振り返ってみますと、

1. ITMSを代表とする音楽配信の更なる活発化、着メロと着うたの交代を示す変化、関連するコンテンツプロバイダーの変化、勝手サイトの隆盛が見られ、これに伴うネットワーク関連著作権処理への複雑化に対応し、NMRCとAMEIの連携作業を軌道に乗せました。

2. 一方では、MIDI規格の新たな応用の提案が本格的になされた年でもあります。米国MMAとの協力体制を充実させ、内外でMIDI機能のあらたな付加価値を検討し始めました。

以前から申し上げているとおり、AMEI活動を2分する「MIDI規格の推進」と「楽曲の著作権処理」は、AMEI事業の車の両輪であります。これらの活動を、今年も充実させていきたいと考えています。

著作権関連のテーマでは、

1. 今年は、ここ1年で軌道に乗りだしたNMRCとの連携作業が、音楽電子ビジネスのスムーズな展開に本格的に貢献する年として期待しております。

またMIDI関連のテーマでは、

2. 守るべきMIDI規格の安定をめざし、同時に急速な技術の進歩と時代の要請の中で対応すべき新たな付加価値への考察を進めていきたいと思っております。それが、「音楽の作り方」に新たな価値を生じ、コンテンツソフトへの貢献に役立つことを望んでおります。

MIDI規格は音楽コンテンツに使われるデータのコアそのものの性格と同時に、そのようなコンテンツを生み出す各種の楽器のコントロールや接続を保証する規格でもあります。MIDI音楽コンテンツの互換性の維持と同時に、楽器間での演奏と接続の互換性を保つことにも注意を払っていききたいと思います。また音楽ソフトウェアのオリジナリティーに敬意を払い、「音楽ソフトに対する海賊行為防止への啓蒙活動」にも健全で理性的な支持が必要と考えます。

以上をふまえ、今年の活動の方向も、「AMEI機能と組織の整合とその再確認」を重要な課題とし、何よりもまして、私たちの目的と機能と、メリットの定義と確認をより分かりやすくするのが責務と考えております。

「MIDI規格の推進」と「楽曲の著作権処理」は、AMEI活動の重要領域で、このどちらが欠けても健全な音楽ソフト産業の振興はあり得ないわけで、私たち会員が協会の活動をメリットとして享受できる活動項目を明確にしていくことが重要であることを、再認識しております。

この点でも、多忙な中、各種委員会活動に力を発揮させておられる関係の皆様には、心から感謝を申し上げるとともに、今年もよろしくご協力申し上げます。

更なる電子音楽業界の発展に寄与することを目指し、会員の皆様のご協力とご支援、また経済産業省をはじめとする関連省庁の方々のご指導を仰ぎながら、この1年を次につなげるべく活動、努力して行く所存です。



## 交代理事挨拶

岩崎 修三 専務理事  
社団法人音楽電子事業協会 事務局長

AMEI会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、専務理事の大役を仰せつかりました。事務局として会員の皆様のご期待ご要望に少しでも応えられるよう精一杯努力いたしますので、何卒ご支援のほど宜しくご協力申し上げます。

AMEIが事業者団体として音楽電子事業の発展に果たしてきた10年の役割というのは、今更語るまでもなく非常に大きなものがありますが、今年度は、その礎の上に新たな10年に向けての活動の第2ステップに入る年です。

21世紀に入ってからの変化のスピードは想像をはるかに超えるものがあります。

AMEIを取り巻く環境も劇的な変化が起きていると痛感しています。そうした中、AMEI事業における車の両輪として位置づけられる「MIDI規格の推進」と「楽曲の著作権処理」におきましては精力的な活動が行われています。

「MIDI規格の推進」においては、次世代規格の検討も活発に行われ、今年はアメリカMMAとの協議も精力的に行う予定になっています。携帯端末におけるMIDI規格との新しい楽しみ方（次世代アクティブ着メロ）の開発をめざした「モバイル・ミュージカル・インターフェース仕様（MMI仕様）」も決定いたしました。

「楽曲の著作権処理」におきましては、JASRACをはじめとする管理事業者との協議は「業務用通信カラオケ」については継続的協議が精力的に行われていますし、「インタラクティブ配信」につきましては、ネットワーク音楽著作権連絡協議会（NMRC）として、技術の進歩に伴う新しいビジネスチャンスを損なう事のない様に、変化に対応したテーマを逐次設定し管理事業者と精力的に協議をしています。又、関係省庁への働きかけ、関連団体との情報交換・意見交換もスピード感を持って行っています。楽曲利用に関する膨大なデータ処理は、利用事業者にとり大きな問題であると思っておりますが、このテーマについても事務作業の効率化を目的として管理事業者、関連団体と意見交換をしながら進めています。更に、「楽器内蔵コンテンツの保護」を目的としたWGの活動も今年度はまとめの時期に入っています。

AMEIの活動は、各委員会の精力的な活動に支えられています。技術の進歩とビジネス環境の変化のスピードが益々加速される中、事務局として変化のスピードに遅れる事なく委員会活動を力の限り支援してまいりたいと覚悟をしています。

音楽電子事業における業界の発展と会員の皆様の企業活動に貢献できる音楽事業者団体を目指して、会員の皆さまのご協力とご支援、又、経済産業省をはじめとする関連省庁のご指導を仰ぎながら、事務局として、全力で取り組んでまいりますので、何卒宜しくご協力いたします。



小清水 勝 理事  
株式会社フェイス 取締役

AMEI会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、当協会の理事に就任させて頂く事になりましたので、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

昨年、携帯電話の高機能化が著しく、デジタルコンテンツの流通形態やサービスモデルが変化している中、今まで以上にAMEIの担う役割は重要になっていくと考えております。



今まで弊社は、AMEIの活動による成果の恩恵を事業に活用させて頂いておりましたが、今後サービスの多様化が進む中、事業者側としての技術的な進歩も当然ながら、著作権についての考え方も、多様な対応が必然になってくると思われ、著作権管理事業者は勿論、消費者や我々事業者にとって最善となりうる対応に、更なる貢献ができればと思います。

また、そういった変化に対応可能な体制と技術の進歩が、世界における日本のマルチメディアというものを、デバイスに拘らずリードする事ができる重要な要素だと意識しつつ、AMEIでの活動を会員の皆様と共に進めたいと考えております。

微力ではございますが、業界の発展に貢献できますよう尽力して参りますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

### 川田 敦昭 理事 株式会社サイバード 代表取締役社長

AMEI会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、当協会の理事という大役を仰せつかることとなり、謹んでご挨拶申し上げます。微力ながら、精一杯努力し、協会の発展に貢献できれば幸甚に存じます。

サイバードは、移動体通信事業者やメーカーとともに、モバイルインターネットを活用した新しい生活スタイルや画期的なバリューを次々に先駆けて提供しております。音楽コンテンツとしては、2000年に着信メロディの配信をスタート。その後、着うた、着うたフルなどの音楽配信へと事業を拡大してまいりました。

現在のインタラクティブ音楽配信の市場に目を向けますと、日進月歩の技術革新と共に新しいビジネスモデルが生み出されており、その成功のカギのひとつが、我々コンテンツ利用者の利便性の高い仕組みをコンテンツホルダーといかに構築するかにあると認識しております。

AMEIの活動を通し、このような業界の仕組みづくりに加え、「音楽業界」、「モバイル業界」、さらには「音楽文化」の発展に寄与していければと考えております。

会員の皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。



## 交代委員長挨拶

### 袴 俊雄 運営委員長 JVCエンタテインメント株式会社 専務取締役 AMEI 常務理事

会員の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび佐々木隆一様の後を受けて、運営委員長を引き受けさせて頂くことになりました。

運営委員会は、AMEIの最高執行機関である理事会及び会長、副会長、専務、常務理事からなる三役会と、AMEIの実質的な活動機関である専門委員会を相互に結ぶジョイントの役割を担っております。各専門委員会は、会員企業への支援活動とAMEIが果たすべき社会活動を具体的なテーマとして本当に熱心に活動しております。その各専門委員会の日頃の活動をAMEIのオフィシャルな活動としてオーソライズすると共に、各専門委員会の相互連携が円滑に進められるようサポートしていくことが、運営委員会の重要な課題となっております。

AMEIの社会的役割を全うすべく各専門委員会等に参加されている皆さまの活動が円滑に進められるよう、事務局のお力添えを頂きながら精一杯頑張りたいと思っております。

著作権等管理事業法が施行されてから今年で6年が経過しましたが、



著作権を取り巻く環境は更に変化が進み、関連法令の改正をも見据える状況です。

私たちAMEIの「骨格」であるMIDIは、電子楽器の進化に加えて、通信カラオケ、着信メロディのコア技術としても音楽と密接にかかわり、新しいビジネスモデルの創造に役立ってまいりました。もちろん、インターネットや携帯電話のインフラ環境の急激な進化は止まることを知りませんが、対応に窮するのではなくMIDIを活用したさらなる新しいビジネスモデルを創造することができるチャンスが引き続き与えられたと捕らえております。

それには、以前にも増してMIDI規格の普及、およびMIDI関連ソフトや関連機器の普及などのために必要とされる様々な課題への調整がクローズアップされて来るでしょう。反面、セキュリティ技術の確立と著作権や著作隣接権の運用ルールの確立や見直しも重要になります。そのためにも、会員企業の皆さまのニーズに的確かつ俊敏に対応していかなくてはなりません。また、音楽電子事業者の団体として社会や行政および他の業界団体との接点を常に最良の状態に維持することがAMEIの重要な活動と考えております。

個々の企業活動においては常に厳しい競争を繰り返している会員企業同士ではありますが、ことAMEIの活動に関しましては、社会と企業が共生するフレンドリーな関係を保ちつつ、新しいサービスや技術を提供することで会員企業のさらなる発展と社会に貢献する団体であることを目指して微力ながら取り組んでまいりたいと存じます。皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますように何卒宜しくお願い申し上げます。

### 高橋 直樹 広報委員長

カシオ計算機株式会社 開発本部 第二コンシューマ統括部 EMP部 担当課長

AMEI会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、広報委員長に就任させて頂くこととなりました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

当委員会はAMEIの公益法人としての存在意義を、広く内外にアピールすると共に、会員各社様への適切な情報発信を適宜行うことにより、協会活動を側面から支援することを使命としています。

また今期は次の10年に向けての協会の基盤強化、という観点から、広報活動を通じた新規会員の獲得という重要な課題もあります。

微力ではございますが、会員の皆様のご協力とご支援を賜りながら、事務局のご協力も頂き、努力して参りたいと存じます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



### 板橋 徹 製品安全・環境委員長 ローランド株式会社 品質保証部 部長

AMEI会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、製品安全・環境委員長に就任させて頂いたこととなりました。

当委員会は昨年より、その活動内容を具体的に表現出来るように「製品安全・環境委員会」と改め、活動しています。昨今のモノ造りの現場においては、市場からの「安全と環境」にかかわる要求事項の変化が多様化し、中国、台湾、韓国での安全規格やEMC規格、欧州RoHSに続き中国版RoHS、韓国版RoHSなど、各国の独自性を伴った法規制が多々発生しています。それら規制事項においては、その解釈に戸惑う部分も多く、正しく理解・運用する為には、お互いの情報収集と意見交換が不可欠です。当委員会では、個別入手した情報や課題について、AMEI参加企業間での意見交換および情報提供を行える場を積極的に提供して行きたいと思っております。

微力ではございますが、努力して参る所存でございますので、ご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



# 平成19年度事業計画（委員会活動）

（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

## 1 全体活動

当社団が過去10年間に蓄積してきた実績の上に、電子楽器・電子機器及び関連ソフトウェアの分野において、今後の変化に対応するための準備をする。

また、積極的に新規分野の関連諸情報をもとに、関係会員企業の協力等を受け、速やかな対応をすべく、各委員会活動を積極的に推進する。

尚、以下の各委員会活動は、定款第4条(事業)の各項に準ずるものとする。

## 2 製品安全・環境委員会

### <活動方針>

電子電気楽器及び関連機器の安全確保・環境保全を両軸とした、技術、法律、諸規格に関する諸問題の調査研究を、両専門部会が主体性をもって推進することにより、会員各社の専門知識、技術の習得とあわせて電子電気楽器及び、関連機器市場における製品の安全性や信頼性の向上を目指す。

同時に電子電気楽器及び関連機器市場における製品の安全性の確保、更にはそれに伴う関係会員企業の事業の安定化、事業リスクの低減等に寄与するものとする。

#### ●委員会活動

二つの専門部会の協力体制の下、役割分担を再検討し、本委員会活動の趣旨をまっとうするための運用上の施策として、活動環境の整備、工夫改善等を積極的に取り込む。

#### ●安全規格部会・環境問題研究部会の活動

会員の技術向上を目的として、各部会に於いて、関連する諸技術テーマを捕らえて、セミナー開催を企画する等により、外部情報の提供とその共有化を積極的にすすめる。

## 3 MIDI規格委員会

### <活動方針>

昨年度から、本委員会を従来の幹事会制から、新生MIDI規格委員会として新委員長のもとで新たに、全AMEI会員からメンバーを募り、新たな市場創出を目指した新規格提案とその一連の審議等の諸活動を開始した。

平成19年度は、新生MIDI規格委員会の第2年度として、その本来の重要テーマとして前年度から検討を開始した次世代MIDI規格を軸として、アクティブ着メロWGも含めて、日米の密な協力体制の下で、年度内を目処として、一連の成果をまとめるべく、米国MMAとの連携作業のもと合同会議の開催等により、将来に涉り、より広い商品ジャンルで活用・応用可能なMIDI規格として正式に規格化すべく、本委員会活動を継続して実施する。

#### ●委員会・部会活動計画案は以下のとおり

- \*委員会：年間5～6回
- \*MIDI 1.0部会：年間4回

- \*アクティブ着メロ部会：年間6回
- \*次世代MIDI部会：年間12回、及び電話会議12回
- \*次世代MIDI部会ハードWG：年間12回
- \*次世代MIDI部会ソフトWG：年間12回

## 4 著作権・ソフト委員会

### <活動方針>

1. 著作権等管理事業法の制定に伴い発生した問題点を解決すべく関係団体と協力し文化庁に対する活動を引き続き活発に行う。又、様々な状況の変化の中で新しい問題に対して制度疲弊を起こしていると考えられる部分に対しては、関係省庁、管理事業者等に積極的に発信していく。

2. 定例会を通じ各部会の取り組み課題、管理事業者との協議状況をタイムリーに情報提供、会員の意見を吸収、部会活動に反映させる事により活発な活動にする。

#### ●カラオケ部会

- ・JASRACと使用料規程の見直しに関する協議を継続する
- ・JASRACと管理除外になった楽曲の取り扱いにつき継続協議する
- ・イーライセンスと「業務用通信カラオケ」の使用料規程案について協議する

#### ●音楽配信部会

- ・音楽配信事業に関する音楽著作権管理事業者との協議をNMRC活動として行う
- 又、その情報を定例会にてスピーディーに伝達すると共に、会員の意見を集約し協議に反映させる
- ・利用事業者、管理事業者ともに膨大な事務量の削減に向けて、NMRC実務WG活動をする
- ・必要に応じ、NMRCとして関係省庁及び関連団体と情報交換、意見交換の場をもち、問題解決に取り込む

#### ●ソフト規格部会

- ・ワーキンググループを通じて、MIDI及び音楽関連ソフトウェア事業に関する情報交換、勉強会の実施、インターネットを始めとした新しいメディアに於ける音楽電子事業の研究を行う
- GCP WG(電子楽器内蔵コンテンツ等の保護に関するWG 12回、勉強会2回)  
電子楽器内蔵コンテンツ(音楽素材データ)に対する著作権上の保護施策の調査研究及び広報
- DMN-WG(電子的な譜面表示に関するWG 2回、通常はメーリングリストにて)  
譜面等視覚的表示を伴うMIDIデータのインタラクティブ配信に関する諸問題研究

## 5 透かし推進プロジェクト

### 1. 活動方針

AMEIが提供する「標準MIDI電子透かし」(第一層)

埋め込みツールであるMIDIsignを用いて会員企業がISMC規格を利用するように促進し、MIDIデータ作成、販売におけるDRM(電子的権利保護)の仕組みを構築する。

共通透かし規格の利用によりデータの違法複製抑止、ならびに権利者からの円滑な許諾を獲得して業界の発展に貢献する。

2. プロジェクトは3つのワーキンググループによって構成される。

#### 1) 技術ワーキンググループ

- ・第2層透かし技術を持った会員が登場した際の親和性等を検討する
- ・技術および開発面におけるメンテナンスと各社へのコンサルティング支援の実施。
- ・米国MMAとの技術面における説明、情報交換と交渉の実施
- ・リコメンデッドパターン(会員企業が自己管理するスペースのテンプレート)の整理

#### 2) 運用ワーキンググループ

- ・ISMC(仮称: International Standard MIDI Code)の規格普及。
- ・管理運用サーバーの維持運営

#### 3) 普及展開ワーキンググループ

- ・MIDI規格委員会などAMEI内の各委員会、部会との連携
- ・利用促進パンフレットの作成と契約促進活動の展開
- ・JASRACなど、外部団体への情報提供と連携
- ・米国MMAとの交渉

## 6 メディアコンテンツ委員会

会員を対象とした各種新技術の紹介等、メディアコンテンツ関連のセミナーを企画、開催する。

今期の企画として実施に向け検討中のセミナー案は以下の通り。

- 1) Dolby社の新音声圧縮技術の紹介と実演デモ
- 2) 尚美学園大学 富田研究室、野尻氏による音源ビジネスの最前線
- 3) クリプトンフューチャーメディア社による音源ビジネスの最前線
- 4) 早稲田大学のミュージックンロボットのコンセプトとその技術研究
- 5) MIDI規格委員会で検討中の次世代MIDI規格の将来的応用等を幅広く、別の視点で検討し、新規格への必要な情報・機能等を盛り込むための諸検討・提案をする

## 7 MIDI検定委員会

### 1. 活動方針

- ・MIDI検定試験の減少傾向に歯止めをかける方策を検討・実施する
- ・現在の検定プログラムの拡大発展について新たに検討する
- ・検定協力校でのMIDI普及を強化する

- ・収支バランスを改善すべく具体的な手法の検討他、必要な見直しをする

### 2. 事業計画

#### ● 検定試験

- ①第10回MIDI検定試験3級、第9回2級筆記試験  
平成19年12月2日(日)
- ②第9回2級実技試験 平成20年2月 東京、大阪、東京アップル会場
- ③4級認定講座 随時
  - \*検定受検協力校での3級の学内受験制度の具体化について検討する
  - \*検定プログラム全体の拡大の方策を検討する
  - \*特に、1級試験の開始を目標とし、その必要条件、問題点等につき検討する

#### ● 指導者認定講座

- 4級指導者認定講座 東京、大阪 春  
3級指導者認定講座 東京、大阪 春  
2級(筆記)指導者認定講座 夏～秋

#### ● MIDI検定の普及活動

- 学校におけるMIDIセミナーの検討  
2級実技体験セミナーの展開手法の検討と実施

#### ● 海外展開

- (中国) 第4年度を迎える中国では、継続した実施の元、受験者の実態の把握と、試験自体の質等についても現地の情報をとるべく事前に現地とも意見交換等を行い、将来の発展に備える  
(韓国) 初回試験実施に向けて準備中

## 8 事業委員会

### 1. 活動方針

- ・2007年楽器フェア出展の見送りに伴い、事業活動テーマを再検討する。

### 2. 事業計画

- ・他委員会との合同セミナーの企画についても検討する
- ・独自セミナー等の実施について検討
- ・2008年度以降の次世代MIDI規格まとめ時期に合わせた活動計画の準備を行う

## 9 広報委員会

### 1. 活動方針

社団から外部に対する情報発信機能を充実し、当協会の存在意義を広く外部に対してアピールすると共に、会員に対する情報提供機能の充実により、会員相互の連帯感を強め、公益団体としての当協会の積極的な活動を側面からサポートする。

### 2. 事業計画

- ・会報「AMEI News」の発行  
4月、7月、11月の年3回発行する
- ・AMEIホームページの充実(事務局との連携作業により推進)
  - \*各委員会、部会、WG等の専用ページを設定する
  - \*英語版ページの更新についての検討をする

# 安全規格部会 新EMC指令セミナー

製品安全・環境委員会の安全規格部会では、国内外の製品安全に関する情報を各会員により収集し、部会で情報交換を行い、専門知識を共有し、製品安全に関する法規制に適合した製品の開発、製造および販売が出来るよう努めております。また、専門性を高めるため、外部講師による勉強会も随時開催しております。

欧州で製品を流通させるためにはCEマーキングを付さなければならないCEマーキング制度がありますが、CEマーキングを付すためには、EMC指令に従った規格を使用して試験を行い、製品の適合立証を行わなければなりません。

そのEMC指令(89/336/EEC)が2004年12月31日付で改訂され新EMC指令(2004/108/EC)として本年7月から施行されます。これに先立ちオランダ標準化委員会(CENELEC、IEC国内対応委員会)メンバー、R&TTE CA委員長等に従事されてい

るJan Coenraads氏を招待し、さる2007年2月20日に「新EMC指令セミナー」と題して浜松のアクトシティ研修交流センターにて、開催いたしました。

EMCとは、電磁両立性と訳される英語のElectroMagnetic Compatibilityから付けられた単語です。

機器から出す電気的なノイズを小さくして周囲に電気的な悪影響を与えないことと、外部からある程度の電気的なノイズが加わっても誤動作せずに機器が耐える、両方の性能を持つことです。

両立性という訳は、ノイズを外部に出さない、外部から受けても誤動作しないという両立性を示しています。

セミナーの内容は、旧指令の猶予期間および新指令の適用時期や変更内容の説明はもちろんのこと、旧指令から変わらない必須要求事項についても詳細に説明があり、これまでより深く指令の内容を知ることが

出来ました。

中でも我々製造者に大きく関係する変更点は、旧指令では整合規格(EN規格)を使用しない、あるいは使用出来ない場合はCB(Competent Body:EUの適合性評価機関)に確認してそのお墨付きをもらう必要がありました。新指令ではCBへの確認は必須ではなくなり、製造者自身がアセスメントを行って適用する規格を決定し、適合試験を実施出来るようになった部分です(製造者自身で決定出来ない場合はNB(Notified Body:EUの通告先機関)に確認することは出来るが、それが最終決定ではなく、最終の決定は製造者が行います)。

現在、多くの欧州EMCおよび無線規格の作成や改定に携わっている講師の生の声を聞くことができたこと、そしてAMEIとのつながりが出来たことは今後の活動に有意義なものであったと思います。

## MIDI検定委員会報告

# 4級指導者認定講座

5月20日(日)27日(日)に東京及び大阪にてMIDI検定2級資格保持者を対象とした「MIDI検定4級指導者認定講座」が42名の参加のもと行われました。3時間にわたる密度の濃い講座ですが、参加者は緊張感を持ち、熱心に受講していました。

平成14年に初めて実施したこの4級指導者認定講座も現在までに322名の累計受講となり、全国で活躍されています。今回認定された42名の新たな指導者がMIDIの普及の一翼を担ってくれる事を期待しています。

7月には「MIDI検定3級指導者認定講座」、9月には「MIDI検定2級筆記指導者講座」がスケジュール化されています。



## MIDI規格委員会報告

# AMEI「MMI仕様」準拠アプリケーション ロゴマーク許諾制度 運用開始

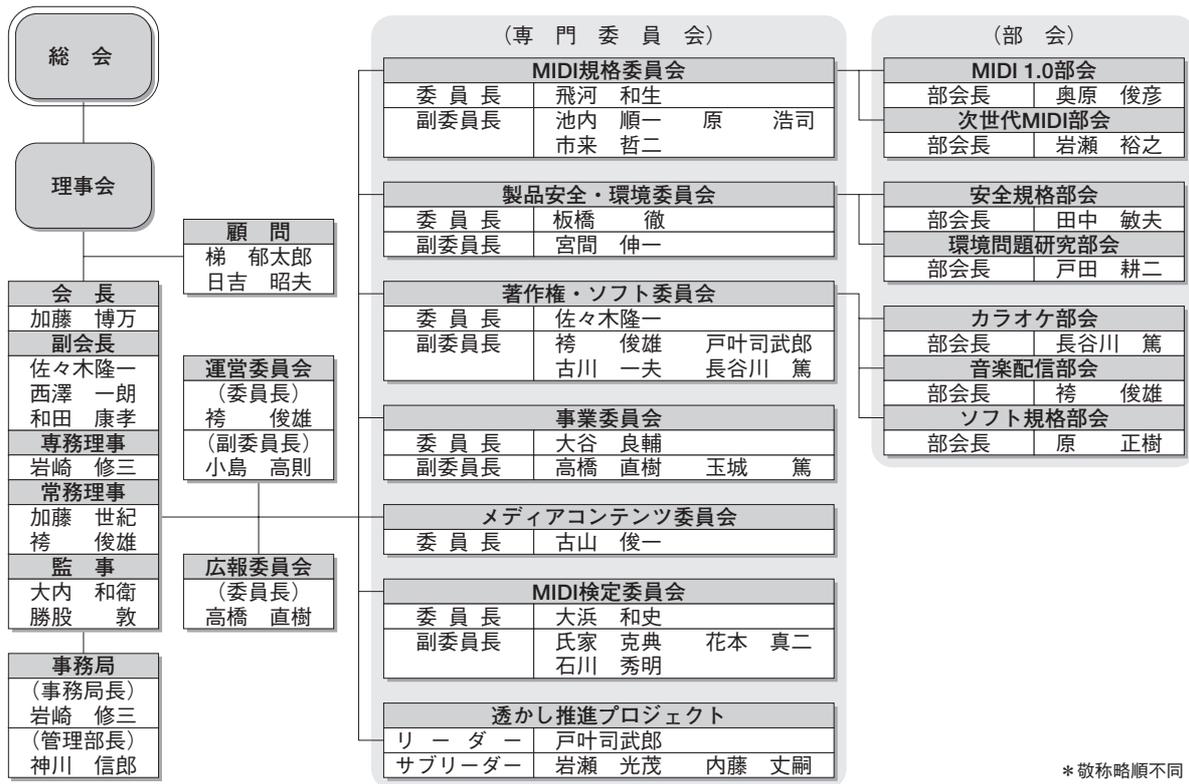
MIDI規格委員会MIDI 1.0部会アクティブ着メロワーキンググループでは、平成18年春より携帯端末におけるMIDI規格との新しい楽しみ方の開発を目指し、「モバイル・ミュージカル・インターフェース仕様(以下MMI仕様)」を検討してきました。

このたびMMI仕様のAMEI案が決定致しましたので、MMI

準拠アプリケーションへのロゴマーク許諾制度の運用を開始致します。制度の利用に際しては各種申請書の提出を戴くこととなります。MIDIコンテンツビジネスの健全・円滑な発展を目指し、各位の積極的なご参加をお待ちしております。

詳細はAMEI事務局まで

# (社)音楽電子事業協会 平成19年度組織図



# (社)音楽電子事業協会 平成19年度役員名簿

会長	加藤 博万	ヤマハ株式会社 取締役専務執行役員	〃	田中 義雄	株式会社JEUGIA 代表取締役会長
副会長	佐々木隆一	株式会社エムティーアイ 取締役	〃	土岐 高広	株式会社エクシング 代表取締役社長
副会長	西澤 一郎	ローランド株式会社 専務取締役	〃	中川 利巳	株式会社鈴木楽器製作所 取締役社長
副会長	和田 康孝	株式会社第一興商 代表取締役社長	〃	西垣 保男	株式会社タイトー 代表取締役社長
専務理事	岩崎 修三	社団法人音楽電子事業協会 事務局長	〃	英 裕治	ティアック株式会社 代表取締役社長
常務理事	加藤 世紀	株式会社コルグ 代表取締役社長	〃	飛河 和生	クリムゾンテクノロジー株式会社 代表取締役社長
常務理事	袴 俊雄	JVCエンタテインメント株式会社 専務取締役	〃	藤田 一夫	アップルコンピュータ株式会社 政策企画部政策企画渉外部長
理事	赤松 憲樹	学校法人尚美学園 顧問	〃	松川 修二	NECエレクトロニクス株式会社 モバイルシステム事業部シニアエキスパート
〃	大野 政昭	株式会社サミーネットワークス 代表取締役社長	〃	村上 二郎	株式会社河合楽器製作所 執行役員 電子楽器事業部長
〃	踊 契三	ギガネットワークス株式会社 代表取締役社長	〃	安富 和弘	株式会社セガ 執行役員 ネットワーク戦略事業部長
〃	加茂 正治	株式会社BMB 代表取締役社長	〃	大内 和衛	株式会社キューブ 代表取締役社長
〃	川田 敦昭	株式会社サイバード 代表取締役社長	〃	勝股 敦	株式会社CTA 代表取締役社長
〃	興梠 雅治	株式会社ヤマハミュージックメディア 代表取締役社長	監事	梯 郁太郎	ローランド株式会社特別顧問
〃	小清水 勝	株式会社フェイス 取締役	〃	日吉 昭夫	
〃	小林 宏	株式会社ドワンゴ 代表取締役社長	顧問		
〃	島村 元紹	島村楽器株式会社 代表取締役社長	〃		
〃	鈴木 洋三	カシオ計算機株式会社 常務取締役 営業本部長	〃		

(常勤役員は専務理事のみ、他の役員は非常勤です。)

## 会員名簿

50音順 2007年7月19日現在

<b>あ</b>	株式会社 J E U G I A	フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー
アイデックス音楽総研株式会社	学校法人 尚美学園	株式会社フットレック
アップルコンピュータ株式会社	<b>す</b>	<b>へ</b>
<b>い</b>	株式会社ズーム	ベスタクス株式会社
株式会社インターネット	株式会社鈴木楽器製作所	<b>ま</b>
インフォコム株式会社	<b>せ</b>	松下電器産業株式会社
<b>え</b>	セイコーインスツル株式会社	<b>み</b>
株式会社エクシング	株式会社セガ	有限会社ミュージカルプラン
NECエレクトロニクス株式会社	株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス	株式会社ミュージックネットワーク
NTTコミュニケーションズ株式会社	<b>そ</b>	ミュージックノート株式会社
株式会社エムティーアイ	ソフトバンクモバイル株式会社	<b>め</b>
株式会社エンターブレイン	<b>た</b>	株式会社メロディーズ アンド メモリーズ グローバル
<b>お</b>	株式会社第一興商	<b>や</b>
沖電気工業株式会社	株式会社タイトー	ヤマハ株式会社
株式会社音響総合研究所	株式会社ダイマジック	財団法人ヤマハ音楽振興会
<b>か</b>	株式会社タムラ製作所	ヤマハミュージックトレーディング株式会社
カシオ計算機株式会社	<b>て</b>	株式会社ヤマハミュージックメディア
株式会社河合楽器製作所	ティアック株式会社	<b>ら</b>
<b>き</b>	株式会社ディーアンドエムホールディングス	株式会社ラグナヒルズ
ギガネットワークス株式会社	プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー	<b>り</b>
株式会社キューブ	<b>と</b>	株式会社リットーミュージック
<b>く</b>	東映ビデオ株式会社	株式会社リムショット
株式会社グリオ	株式会社ドワンゴ	<b>ろ</b>
クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	<b>に</b>	ローランド株式会社
クリムゾンテクノロジー株式会社	ニフティ株式会社	〈以上、正会員会社67社〉
<b>こ</b>	学校法人片柳学園 日本工学院専門学校	<b>*賛助会員</b>
株式会社コピーライツビジョン	日本シンセサイザー・プログラマー協会	中音公司 (中華人民共和国)
株式会社コルグ	学校法人電子学園 日本電子専門学校	株式会社博秀工芸
<b>さ</b>	<b>は</b>	株式会社ミュージックトレード社
株式会社サイバード	株式会社ハドソン	〈賛助会員会社3社〉
株式会社サミーネットワークス	パナソニックモバイルコミュニケーションズ株式会社	
<b>し</b>	<b>び</b>	
株式会社CTA	株式会社BMB	
株式会社シーミュージック	<b>ふ</b>	
JVCエンタテインメント株式会社	株式会社フェイス	
島村楽器株式会社	株式会社フォーサイド・ドット・コム	



DENON DJ

7月2日より株式会社ディーアンドエムホールディングス プロフェッショナル ビジネス カンパニー様が入会されました。  
「今後、弊社では、長年培ってきたハードウェア/ソフトウェア技術とMIDIを融合させることにより、マーケットニーズに合ったオーディオ/ビデオ機器を開発していきます。」

## 第11回通常総会議事録の開示について

下記のAMEIホームページでご覧いただけます。

AMEIホームページ <http://www.amei.or.jp/> の会員専用ページ

会員専用ページへのアクセスはID及びパスワードの入力が必要です。  
お忘れの方はE-mailにてお申込みください。

- 送付先: [webmaster@amei.or.jp](mailto:webmaster@amei.or.jp)
- メールのSubjectにAMEI member HP registration (半角文字に限る)
- 本文にお名前、E-mailアドレス、会社名、所属、TEL、FAXを記入のうえお申込下さい。

AMEI NEWS Vol.33 / 2007.7.19  
社団法人音楽電子事業協会 機関誌  
発行: 社団法人音楽電子事業協会 事務局  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F  
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549  
発行人: 岩崎修三  
編集人: 高橋直樹 (広報委員会)  
編集協力: 株式会社 博秀工芸  
ホームページアドレス: <http://www.amei.or.jp/>